

令和6年度 歴史・文化探訪の会（報告）

梅雨の候、皆様にはご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。

さて、先日5月12日（日）に実施しました第36回探訪会「西尾城散策と一番茶摘み体験」並びに令和6年度総会について、ご報告をさせていただきます。

心配された雨も、一時ばらばら来ましたが大したことはなく、無事探訪会を実施することが出来ました。探訪会を振り返ってみます。

10時00分頃、名鉄西尾駅に参加者12名が集合、徒歩で西尾市歴史公園に向かった。10分ほどで公園に到着、二の丸丑寅櫓の横を通り左折、鎗石門（二の丸御殿への表門、真鎗の飾りがあったためか）付近に到着、そこで「にしお観光ボランティアガイドの会」のお二人のご挨拶と西尾城の歴史と概要についての説明を受けた。

西尾城は13世紀の前半の鎌倉時代、三河国守護に任じられた足利義氏（吉良氏と呼ばれる）が築城した西条城が始まりと伝わる。その後様々な変遷を経て、江戸時代の寛永15年（1638年）西尾城の大改修が計画され、西尾城の特色である堀と土塁が城下町を囲む「総構え」の体裁が企てられ、明暦3年（1657年）に完成した。明和元年（1764年）に大給松平氏が藩主として入城し6万石の城下町として栄えた。明治5年（1872年）に廃城となり、建物は殆ど壊された。

平成8年（1996年）に本丸丑寅櫓・鎗石門等を再建し、平成26年（2014年）に天守台、令和2年（2020年）には二の丸丑寅櫓及び土堀の復元工事が完成した。この土堀は二ヶ所の屏風折れがある全国的に珍しいもので、さらに天守の再建が計画されている。

その後、ガイドを先頭に西尾城散策を開始した。まず公園内の一角にある旧近衛邸へ向かった。旧近衛邸は京都の摂家筆頭であった近衛家の邸宅の一部を移築したもので数寄屋造りの書院と茶室から成り、「三河の小京都西尾」（平成7年全国京都会議への加盟が認められ名乗る）の一つとして、雅な風情を漂わせていた。庭から建物の外観を見学し、記念撮影も行った。

旧近衛邸を後に、二の丸広場を通り、天守台へ登り、本丸丑寅櫓を遠望、二の丸丑寅櫓に繋がる土堀など見学した。西尾城は鶴城とも言われるが、当時周辺一帯は湿地帯で鶴が多く飛来してきていたとのこと、鶴の吸い物も食べていたようである。

天守台を後に暫く歩き、本丸丑寅櫓に到着、木造で復元された丑寅櫓の中に入り、急階段を登り内部を見学した。丑寅櫓を後に、すぐ近くにある西尾市資料館（昭和52年姫丸跡に完成）に入館、西尾城の概要や西尾の歴史についての展示資料を見学した。

資料館を後に、12時頃鎗石門の前に到着し、西尾城散策を終わった。ガイドのお二人とはここで別れ、タクシーに分乗し、昼食会場の魚寅に向かった。

昼食に先立ち総会を行い会計報告・役員が了承された。昼食に移り、てん茶めし・茶葉の天ぷら等を味わいながら近況報告や歓談の時間を持った。

昼食後、徒歩10分ほどで、「あいや」前に到着、茶摘み体験の受付後、徒歩5分ほどで体験会場の稲荷山茶園に到着した。茶園入り口の小高いステージの上で茶園の係の方から10分ほど説明と注意を受けた。

この茶園は高級抹茶用のもので、一年に一回しか収穫しない。茶の木の天井には一面に黒い覆いがしてあるが、これは遮光することで、渋みを押さえ、うまみを増すためである。新芽のみで古葉は摘まないようななどの配慮もしている。

その後、手袋とビニール袋を受け取り茶園に入る。一人一人がやっと通れる程のお茶の木の間を並木と並木の間に隣と肩が触れない程度の間隔で一列に並び入り、胸ほどの高さのお茶の木を前に30分ほど柔らかな新芽のみをしごき摘む、茶摘み体験を楽しんだ。袋一杯の茶葉を手に戻り、希望者は昔ながらの茶摘み娘の衣装体験も行った。

茶摘み体験を終わり、元来た道に戻り「あいや」に移動、屋内に入り製茶工場を見学、最後に抹茶一服とプチスイーツを味わい工場見学を終わった。その後タクシーで西尾駅に向かい、16:30頃探訪会を終了した。

